

会社情報・株主メモ（平成30年9月30日現在）

会社概要	
社 名（商 号）	株式会社 木曽路
設 立 年 月 日	昭和27年9月30日
本 社	名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
資 本 金	100億56百万円
従 業 員 数	1,248名
主 な 事 業 内 容	料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店を営業
東 日 本 本 部	東京都港区芝三丁目43番15号 芝信三田ビル4F
西 日 本 本 部	大阪府吹田市江坂町一丁目13番41号 SRビル江坂3F
名 古 屋 工 場	愛知県大府市一屋町三丁目36番地

株式の状況	
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,913,889株 （うち自己株式 379,756株）
株主数	22,076名

■株主優待制度のご案内 毎年3月31日及び9月30日現在の100株以上ご所有の株主の皆様へ、 右記のように「株主ご優待券」を6月下旬と11月下旬にご送付いたします。	100株以上 500株未満	半期	1,600円相当（年間 3,200円相当）
	500株以上1,000株未満	半期	8,000円相当（年間16,000円相当）
	1,000株以上	半期	16,000円相当（年間32,000円相当）

株主メモ		お知らせ	
事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで	■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	
定 時 株 主 総 会	6月下旬	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。	
基 準 日	定時株主総会の議決権 3月31日	なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
株主名簿管理人 特別口座管理人 郵便物送付先	期末配当金 3月31日	■未払配当金の支払いについて	
	中間配当金 9月30日	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	■「配当金計算書」について	
(電 話 照 会 先)	三井住友信託銀行株式会社	配当金支払の際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。	
	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号	なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。	
	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。	
公 告 掲 載 新 聞	電話 0120-782-031（フリーダイヤル）		
	取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。		
		日本経済新聞	

株式会社木曽路
〒466-8507
名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
TEL 052-872-1811（代）

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



第70期
中間株主通信

平成30年4月1日～平成30年9月30日



株式会社木曽路

証券コード：8160

お客様からいただいた信頼をもとに顧客指向経営を徹底し、 企業価値を高め社会的責任を担っていきます。

外食企業を取り巻く経営環境は益々厳しさを増しています。少子・高齢化を背景とした人口減少による外食市場規模の縮小や労働力の不足、原材料やエネルギーコストの上昇、環境への配慮と保護、お客様や従業員の安全性確保、高度情報化への対応、自然災害や情報漏洩など様々なリスクへの対応が必要です。また、消費者の食意識が成熟することにより嗜好やニーズの多様化が一層進み、価値指向、健康指向、安全指向は一段と強まっています。

このような環境変化の中で当社は、「よりおいしい料理をお値打ちに真心を込めたサービスで提供し、多くの人々に外食の楽しさを感じていただく」という基本理念を当社の優位性として磨き上げ、新たなフードビジネスモデルの構築に邁進します。そのために当社は、企業倫理・法令遵守の課題に真摯に取り組むのはもちろんのこと、全社を挙げて経営・調理・接客の各分野の能力向上に努め、新商品開発や新事業・新業態への進出、新技術の活用などに不断に挑戦し業績の伸展と企業価値の向上を追求します。また、食の安全性確保や環境保護等の課題に取り組み社会的責任を全うする方針です。

木曽路はここに企業としての存在意義を見出し、未来を拓いていきます。



代表取締役会長兼社長 吉江源之

当中間期の経営成績の概況

当第2四半期累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）におけるわが国経済は好調な世界経済を受け企業収益が伸び、緩やかな景気回復基調となりました。その一方で当外食業界におきましては、労働力不足による人件費の増加や東京オリンピック開催準備に伴う建設費の高騰、店舗間・企業間競争激化など依然厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中で当社は、市場調査により顧客ニーズを把握し、コア商品のブラッシュアップとメニューの拡充を行うとともに定期的なTVCMを実施することで、顧客の創造に取り組みました。更に、店内教育を見直すことで既存店の営業力を強化してまいりました。また、7月には新業態のからあげ専門店「からしげ」1号店を名古屋市緑区に出店し、今後の収益拡大のために多店舗化を推進してまいります。費用面においては、機械化と情報システムの活用、継続的なワークスケジュールの確認などにより生産性が向上し、販管費率が低下しました。

店舗展開、改築・改装につきましては、4店舗の新規出店、1店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は165店舗（前年同期比 2店舗増加）となりました。

当事業年度は既存業態と新業態の積極的な新規出店を行い、収益拡大を図ってまいります。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は198億73百万円（前年同期比 0.7%増加）、営業損益は1億52百万円の損失（前年同期実績 3億7百万円の損失）、経常損益は1億91百万円の損失（同 2億73百万円の損失）、四半期純損益は1億32百万円の損失（同 2億56百万円の損失）を計上しました。

今後の見通し

通期の見通しにつきましては、雇用・所得環境が改善し緩やかな景気回復基調にある一方で、内外の情勢による不安定な為替や株価動向などから個人消費、企業収益及び海外経済への影響懸念が残り、依然として厳しい経済環境が続くと予想されます。

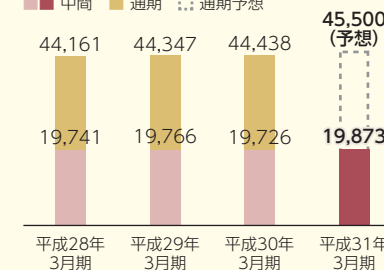
通期の業績につきましては、売上高は455億円、営業利益は24億60百万円、経常利益は25億20百万円、当期純利益は14億20百万円とする計画であります。

財務ハイライト

売上高

単位：百万円

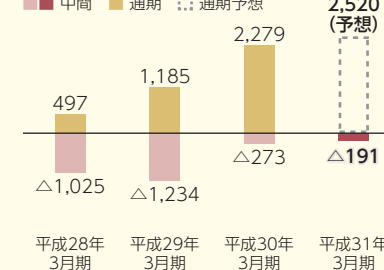
■ 中間 ■ 通期 □ 通期予想



経常損益

単位：百万円

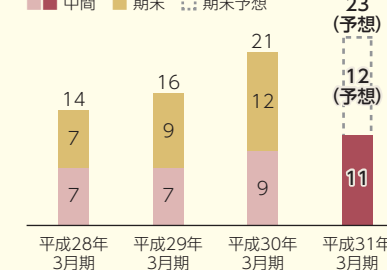
■ 中間 ■ 通期 □ 通期予想



配当金

単位：円

■ 中間 ■ 期末 □ 期末予想



当中間期の主な取り組み・トピックス



しゃぶしゃぶ・日本料理
木曽路

<トマトすきやきの販売>

7月13日～9月3日の期間で新メニュー「トマトすきやき」を販売。加熱してもおいしく食べられるトマトを厳選し、夏のすきやきをさっぱりとお召し上がりいただきました。また、夏休み企画として「SNS写真投稿キャンペーン」を実施し、次世代の顧客層となる若い客層の囲い込みを図りました。「トマトすきやき」はインスタ映えすることもあり、多くのお客様からの写真投稿があり、ブランド認知の向上及び多くの拡散効果がありました。



居酒屋 素材屋

<グランドメニュー・ドリンクメニューを一新>

ぐるなび等のWEBサイトに力を入れた事で宴会獲得に繋がり、客数は概ね前年を超え、料理内容にもご満足いただく事でリピーターも増えております。当中間期は、旬の素材にこだわった手作りの季節メニュー以外にも、グランドメニューやドリンクメニューも一新し、日本酒やレモンサワーのラインナップを増やしました。また、店舗社員からの提案を採用したメニューも導入し、今後も部門一丸となってお客様のニーズに応えてまいります。



鶏料理 とりかく

<タイフェアなど新ラインナップを展開>

毎日4時間以上かけて炊いた鶏ガラスープ、1本1本串打ちしている焼き鳥など、手間を惜しまず店内仕込みに力を入れております。主力商品の鶏鍋はお客様から継続してご好評いただいておりますが、新しい試みとして夏にはタイフェアを実施し、今までにないラインナップのメニューをお楽しみいただきました。今後もお客様ニーズを取り入れ、より一層ご満足いただける店づくりを進めてまいります。



からあげ専門店 からしげ

<平成30年7月2日 からしげ1号店として鳴子店オープン！>

からあげ専門店「からしげ」は日本の国民食とも言えるからあげで人を幸せにします。繁盛・繁栄の意味も込め「からしげ」と命名しました。特製のタレにつけこんだ鶏肉を揚げたてジューシーなおいしさとともに、お求めやすい価格でスピード提供します。お持ち帰りもでき、お手軽に専門店の味をご家庭でも楽しんでいただけます。



しゃぶしゃぶ・日本料理
木曽路

<鰻ひつまぶし／和牛ひつまぶしの販売>



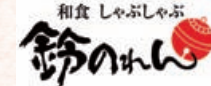
近年、鰻が高騰する中、木曽路では4月13日～11月12日の期間で、鰻ひつまぶしと和牛ひつまぶしをお値打ちな価格にて販売しました。また、土用の丑の日を狙いメルマガ等にて告知を実施することにより、集客を伸ばし、大変好評をいただきました。



焼肉 じゃんじゃん亭

<平成30年7月2日 春日井店オープン！>

愛知県春日井市に『じゃんじゃん亭春日井店』がグランドオープンいたしました。今までのじゃんじゃん亭とは少し趣を変えた新しいスタイルです。厳選されたお肉はもちろん、パスタや生春巻・サラダ・デザートなどこだわりの逸品料理もぜひお召し上がりください。また全店で販売している焼肉食べ放題メニューも大好評です。より安くおいしい焼肉を皆様に楽しんでいただくことを目指します。



和食しゃぶしゃぶ 鈴のれん

<平成30年8月2日 四日市店オープン！>

和食レストラン鈴のれんより『和食しゃぶしゃぶ鈴のれん』に名称を変更し、6月よりお客様の期待の強いしゃぶしゃぶ食べ放題プレミアムコースを全店導入いたしました。また8月には三重県四日市市に新しい鈴のれんのモデル店舗として『鈴のれん四日市店』をオープンいたしました。3世代中心に客数も好調に推移しております。今後も鈴のれんの強みを生かしたメニューの導入とモデルの構築を行い、お客様に支持していただけるお店を目指してまいります。



木曽路グループ

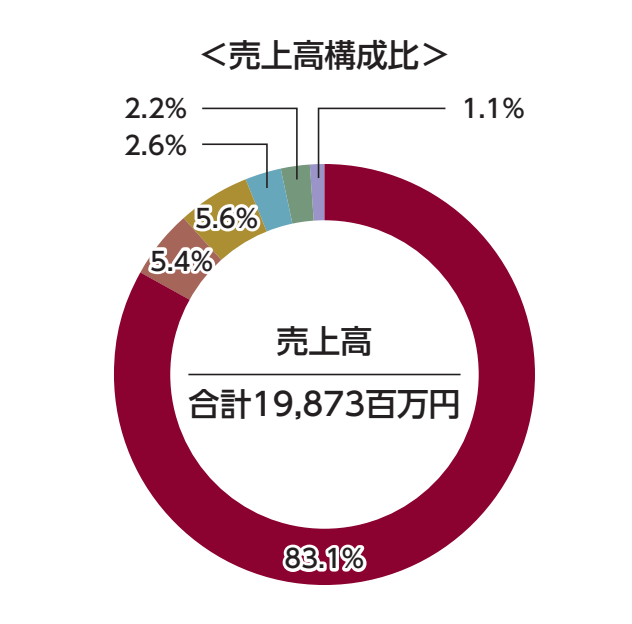
<株式会社テンコーポレーションと フランチャイズ契約締結！>

「天丼てんや」を全国展開する株式会社テンコーポレーションとの間で、フランチャイズチェーン加盟契約を締結いたしました。「天丼てんや」は高品質な天丼・



天ぷらをお手頃価格での提供に優位性を持ち、都内を中心に200店を超える店舗を展開しております。当社として、持続的な成長性と安定した収益性を確保すべく、スピーディーな多店舗化を図ってまいります。

部門別の概況





じゃんじゃん亭部門

1店舗の新規出店と1店舗の退店により、平成30年9月末店舗数は14店舗となりました。

営業面では、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、引き続き法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生限定企画など予約獲得活動に努めました。

売上高 単位：百万円

期間	売上高 (百万円)
平成30年3月期	2,319
平成31年3月期	1,166



とりかく部門

平成30年9月末店舗数は9店舗であります。

営業面では、「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた。また、引き続き法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生限定企画など予約獲得活動に努めました。

売上高 単位：百万円

期間	売上高 (百万円)
平成30年3月期	1,039
平成31年3月期	512



木曽路部門

平成30年9月末店舗数は117店舗であります。

営業面では好評を得ているイベント「北の幸まつり」やTVCMを引き続き実施しました。更に木曽路の新定番「鰻ひつまぶし」や「和牛ひつまぶし」を販売し、顧客満足と客数増加に努めました。また、お誕生日やお祝い初めなどのお子様のお祝い、新入学・就職、結婚や長寿といった慶事・祝事へのアプローチとともに最適のおもてなしを提供してまいりました。

売上高 単位：百万円

期間	売上高 (百万円)
平成30年3月期	16,381
平成31年3月期	16,513



素材屋部門

平成30年9月末店舗数は14店舗であります。

営業面では、味噌串かつ・手羽先のから揚げなどの名古屋めしやこだわりの串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、焼酎一升瓶のお値打ち販売を実施するとともに、少人数から大人数の様々な宴会利用できる店舗として営業活動を行いました。

売上高 単位：百万円

期間	売上高 (百万円)
平成30年3月期	2,169
平成31年3月期	1,066

その他

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「ここの」、からあげ専門店の「からしげ」、外販（しぐれ煮、胡麻だれ類）、不動産賃貸等であります。

新業態の「からしげ」が1店舗、「ここの」が1店舗の新規出店をしました。

売上高 単位：百万円

期間	売上高 (百万円)
平成30年3月期	368
平成31年3月期	228

財務諸表

貸借対照表（要旨）			単位：百万円
科目	当第2四半期末 (平成30年9月30日)	前期末 (平成30年3月31日)	
資産の部			
流動資産	15,779	17,616	
固定資産	21,283	20,826	
有形固定資産	12,846	12,348	
無形固定資産	211	199	
投資その他の資産	8,226	8,278	
資産合計	37,063	38,442	
負債の部			
流動負債	5,567	6,617	
固定負債	3,118	2,899	
負債合計	8,686	9,517	
純資産の部			
株主資本	28,208	28,648	
資本金	10,056	10,056	
資本剰余金	9,875	9,875	
利益剰余金	9,202	9,642	
自己株式	△926	△925	
評価・換算差額等	167	276	
純資産合計	28,376	28,925	
負債純資産合計	37,063	38,442	

POINT 貸借対照表

総資産は370億63百万円となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払による預金の取り崩しによる減少と棚卸資産及び有形固定資産の増加によるものであります。一方、負債は、86億86百万円となりました。これは主に季節的要因により買掛金と未払法人税等が減少したことによるものであります。また、純資産は283億76百万円となりました。主な要因は、四半期純損失1億32百万円、剰余金の配当3億6百万円であります。

以上の結果、自己資本比率は76.6%、1株当たり純資産は1,111.32円となりました。

損益計算書（要旨）			単位：百万円
科目	当第2四半期累計 (平成30年4月1日～ 平成30年9月30日)	前第2四半期累計 (平成29年4月1日～ 平成29年9月30日)	
売上高	19,873	19,726	
売上原価	6,305	6,322	
売上総利益	13,567	13,404	
販売費及び一般管理費	13,719	13,711	
営業損失（△）	△152	△307	
営業外収益	28	42	
営業外費用	67	9	
経常損失（△）	△191	△273	
特別利益	65	－	
特別損失	32	9	
税引前四半期純損失（△）	△157	△283	
法人税等合計	△25	△27	
四半期純損失（△）	△132	△256	

キャッシュ・フロー計算書（要旨）			単位：百万円
科目	当第2四半期累計 (平成30年4月1日～ 平成30年9月30日)	前第2四半期累計 (平成29年4月1日～ 平成29年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,069	347	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△576	△377	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△385	△287	
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△2,031	△317	
現金及び現金同等物の期首残高	15,424	13,727	
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,392	13,410	

POINT キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローが10億69百万円の流出超過となりました。主な要因は、減価償却費の計上に対して、棚卸資産の増加、未払消費税等の減少及び法人税等の支出によるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主な要因として新規出店等に伴う有形固定資産の取得により5億76百万円の流出超過、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で3億85百万円の流出超過となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の残高は133億92百万円となりました。